



原料のロスがゼロに

発電用チップから敷料となるおが粉をふり分け

バイオマス発電用チップをふりいにかけることで、これまでは木くずとして処理されていたおが粉を回収し、家畜用敷料として活用できるようになりました。



木チップふり分け設備にかけられた後のバイオマス発電用チップ。

バイオマス発電用チップと木質系敷料の原料となる木材。



ものづくりへの想い

ものづくりに限らずですが、人が目に付けないようなものに着目して、それをどうにかして活用していくことが楽しいんです。その過程でいろいろな発見がありますね。今後も積極的にチャレンジをしていきます。

今後の展望

石炭をはじめとする化石燃料に代わるエネルギーとして木質燃料の使用が拡大傾向にあります。当社としてもバイオマスチップ事業にさらに力を入れてその需要に応えていく計画です。

【 有限会社 末原産業 】

不足状態にある木質系敷料を製造し 畜産農家の期待に応える

近年、バイオマス燃料事業を手掛けてきた同社。

同じ木材を原料とする木質系敷料の製造設備を整えて、新たな分野への一步を踏み出しました。



代表取締役

末原 雄二
すえはら ゆうじ



環境のためにも畜産農家のためにも

産

業廃棄物の収集運搬と中間処理場の運営を主事業とする同社。近年は、木くずを処理してバイオマス発電用チップを製造するバイオマス燃料事業にも力を入れてきました。

化石燃料の使用削減が叫ばれる中、再生可能エネルギーの一つとして注目されるバイオマス発電は増加傾向にあり、端材などの木材は優先して発電に活用されるようになりました。その分、同じく端材などの木材が原料で、家畜の寝床などに用いられる木質系敷料が不足するという事態が発生していたのです。

製造機」と、製造したバイオマス発電用チップからおが粉をふり分けける「木チップふり分け設備」を導入しました。

バ

バイオマス燃料事業を展開してきたので、原料となる木材は安定して調達することができずからね。木材を無駄なく使い切るためにも、畜産農家さんのためにもチャレンジしてみようと思ったんです」

この2年はコロナ禍による敷料の需要減とウッドショックによる木材価格の高騰のダブルパンチもあり、思うような生産ができていないといいます。状況が落ち着いて需要が戻ってくれば攻勢に転じる計画です。

case 05 廃棄物処理業 有限会社 末原産業

設立：1998年
代表取締役：末原 雄二
資本金：400万円 従業員：25名
事業内容：一般廃棄物・産業廃棄物の
収集運搬、処分

〒889-1702 宮崎県宮崎市
田野町乙9471-4
TEL.0985-86-3679
FAX.0985-86-4252

<https://www.sueharasangyou.com/>

